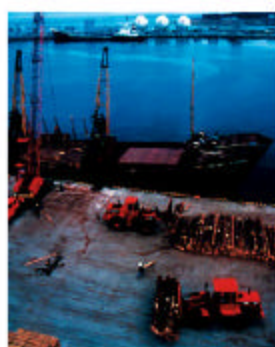


港湾・海岸における重点的な取組み

② 産業競争力を強化する多目的国際ターミナルの拠点的再配置

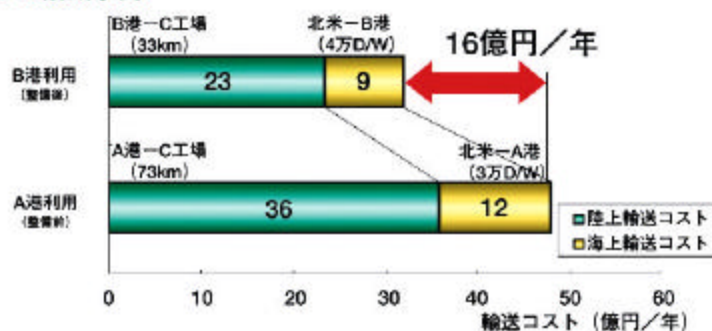
指標：国際海上コンテナ貨物等輸送コスト低減率
【H14比5%減(H19)】

企業の需要動向に対応したバルク貨物（包装せずに積み込まれる貨物）等の安定的かつ低廉な輸送を確保するために、バルク貨物を中心に扱う多目的国際ターミナルの整備等を推進します。また、物流産業空間の形成、既存立地企業の再編等を支援します。



▲多目的国際ターミナルは、原材料の輸入、部品・製品の搬運を行う企業にとって極めて重要な施設です。（伏木富山港）

■多目的国際ターミナル整備に伴う物流コストの削減事例



▲B港における多目的国際ターミナルの整備により、4万D/W級の大形船（従来はA港で3万D/W級）が入港可能に、また港から工場までの陸上輸送距離も短縮されC工場の物流コストが年間16億円削減される見込み。

■多目的国際ターミナル整備による 民需・雇用創出効果の事例

公共事業 （多目的国際ターミナル整備）	港湾整備事業費	約180億円
	事業期間	H14～H18
	整備施設	岸壁(-14m)、防波堤、泊地等
民間投資の概要	関連主要企業の投資額	約860億円 (H12～H23)
	雇用創出の直接効果	約750人

▲港湾背後に立地する企業は増産に向けて新たな設備投資を行い、生産力の増強を予定しており、これに伴い、約750人の新たな直接雇用が発生する見込み。



▲多目的国際ターミナルならびに港湾を利用する臨海部立地企業(イメージ図)